

ノロウイルスに注意しましょう!

～冬場はノロウイルスによる食中毒及び感染性胃腸炎が多く発生します～

ノロウイルスは感染力が非常に強く、食品や人の手等を介して感染し、急性胃腸炎を引き起こします。大阪市内では、毎年、ノロウイルスを原因とする食中毒が発生しています。

また、冬季から春先にかけてノロウイルス等による感染性胃腸炎の発生が多く、集団で生活する施設、特に保育所、幼稚園、小学校、高齢者福祉施設、医療機関では注意が必要です!!

ノロウイルスによる感染性胃腸炎とは?

【主な症状】 おう吐・下痢・腹痛・微熱(1～2日程度続く)

【潜伏期間】 通常 24～48 時間

【感染経路】 ★食品からの感染

- ・生カキ等の二枚貝の生食や加熱不足の貝料理
- ・ノロウイルスに汚染された食品、飲料水
- ・感染した調理従事者の手指や器具等を介して二次汚染された食品 など

★人からの感染

- ・おう吐物、便等を介した人から人への感染 など

【治療】 抗ウイルス薬はなく対症療法

ノロウイルスの特徴

- ① 少量で人に感染する(感染力が強い)
- ② 人の腸内でのみ増殖し、食品や環境中では増殖しない



※おう吐や下痢等の症状がある場合は、早めに受診しましょう!!

ノロウイルスによる食中毒を予防するには?

★飲食店や給食施設等においては、調理従事者の健康管理を徹底しましょう!

・おう吐や下痢等の症状がある場合は、調理に従事しないようにしましょう!

・ノロウイルスは症状がなくなっても1週間程度は便の中に排出されます!

★調理前、食事前、トイレの後に手指の洗浄消毒(しっかりと2回)を徹底しましょう!

★手指の消毒には逆性せっけんや消毒用アルコールはあまり効果がありません!

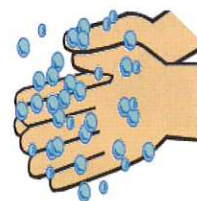
そのため、手指についたノロウイルスをせっけん、流水で洗い流すことが必要です!

★調理器具を介しての汚染がありますので、器具の洗浄消毒を徹底しましょう!

★カキなどの二枚貝の生食は避け、中心部まで十分加熱しましょう!

(85～90℃ 90 秒間以上)

★おう吐物等で汚れた場所や掃除道具は塩素系消毒薬で消毒しましょう!



※詳しい消毒方法は裏面をご覧ください※



大阪市保健所(感染症対策課・各生活衛生監視事務所・食品衛生監視課)

大阪市健康局健康推進部生活衛生課

各区保健福祉センター(各区役所 保健福祉課・健康課・保健課)

★ 消毒のポイント ★

～二次感染を予防するために～

※ノロウイルスに対する消毒は、**塩素系消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム）**や**加熱（85℃、1分間以上）**が有効です（その他、ロタウイルスやサポウイルス等にも有効です。）。

◎塩素系消毒薬（塩素濃度5%）のうすめ方（水でうすめて使います）

★塩素系漂白剤として市販されているものの多くは、塩素濃度が5%です。

対象物	希釈倍数 （濃度）	うすめ液1ℓをつくる場合の目安
食器・ドアノブなどの 消毒やふき取り	250 倍 (200 ppm)	4ml (4 ml の目安：500 ml のペットボトルのキャップ1杯弱)
おう吐物などの廃棄	50 倍 (1 000 ppm)	20ml (20mlの目安：500 mlのペットボトルのキャップ4杯)

※使用する薬剤の使用上の注意を必ず確認してから使用してください！！

※手指や皮膚等の消毒には使用しないでください。

※使用の度ごとに薄めて使い、作り置きは避けましょう。

※衣類等は、色落ちする可能性があります。

※金属の場合はサビますので、消毒後は十分に薬剤をふき取りましょう。

※消毒薬を扱う際は十分換気しましょう。



誤飲するような容器は
使用しないでください。

◎便やおう吐物の処理方法

用意するもの ◆使い捨てガウン(エプロン)、手袋、マスク ◆ペーパータオル等
◆200ppm 及び 1000ppm の塩素系消毒薬 ◆ビニール袋等の密封できる袋 2 枚

- ① ビニール袋は、口をあらかじめ広げておきます。
- ② 腕時計・指輪等はずし、使い捨てのガウン(エプロン)・手袋・マスクを
つけます。
- ③ 便やおう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取ります。



*便やおう吐物が乾燥すると、ウイルスが空気中に漂い、それが口に入って感染すること
があるので、処理はできるだけ早期に、確実に行います。

- ④ さらに塩素系消毒薬(200ppm)を浸したペーパータオル等で、便やおう吐物が付着した床
や壁を外から内に浸すようにふき取り、**広げ**に消毒します。
(※約1mの高さから嘔吐した場合、半径2m程度)
拭き取ったペーパータオル等はすぐにビニール袋に入れ、袋の口をしっかりと縛ります。

*ビニール袋には、廃棄物が十分に浸る量の塩素系消毒薬（1000ppm）を入れておきます。

*処理した人の履物の裏にウイルスが付着することもあるので、床の処理が終わったら、
履物の裏も消毒します。

- ⑤ 口を縛った袋をさらにもう1枚の袋に入れた後、裏返ししながら脱いだ手袋も入れ、内側を触らないように
口を縛って捨てます。
- ⑥ 最後によく手を洗います。



◎おむつの処理方法

便・おう吐物と同じように処理します。おむつは交換後に内容物が飛び散らない
ように、速やかに便を包み込むように閉じ、ビニール袋に入れます。複数人
のおむつを交換するときは、一人の処理が終わったら必ず手を洗いましょう。

